

館山塾報



〒101-0061

東京都千代田区三崎町二一八―九
Tel 〇三三 三二六四―八六三八
Fax 〇三三 三二六四―八六三六 館山塾
<http://www.tateyamajuku.com/>

contents

チーフ制について	2面	ある経営コンサルタントの話
合格の秘訣	2面	
東大合格への道	5面	…… 7面

第Ⅰ・Ⅱ期の行事から

☆第Ⅰ期総合試験

(中学生) 五月二十五日(日)

五月二十五日(日)は、中学生全学年を対象に、第Ⅰ期総合試験が行われます。

対象 中学生全員

科目 国語・数学・英語の三教科
(中三の理・社選択者は五教科)

(高1・Ⅱ) 五月二十五日(日)

五月二十五日(日)は、高校一・二年生の各クラスを対象に、第Ⅰ期総合試験が行われます。

対象 高校一・二年生

科目 国語・数学・英語の三教科のうち、各自の受講科目(受講していない科目も、希望により受験できます)

☆次回総合試験……前期終了試験

【夏期講習最終日に実施】

中・高共通

第Ⅱ期 (6月～8月) の予定

五月二十五日(日)……………中学、高一・二第Ⅰ期総合試験

七月十五日(火)……………平常講義終了

七月二十日(日)・二十一日(月)……………保護者面談

七月二十三日(水)～二十六日(土)及び

二十八日(月)～三十一日(木)……………夏期講習期間A

八月二日(土)～五日(火)及び

七日(木)～十日(日)……………夏期講習期間B

八月十八日(月)～二十一日(木)及び

二十三日(土)～二十六日(火)……………夏期講習期間C

※期間Cは、高3を除く全学年、補講実施期間となります。期間A・Bの欠席者の他、発展的な演習から基礎事項の復習まで、授業以外にも、たっぷり力をつけたい諸君のための期間です。期間Cには高三オプショナル講座も開設されます。またこの期間、中三は各教科の演習講座を実施します。八月二十七日は、左記通り全学年総合試験を実施します。

八月二十七日(水)……………前期終了試験

☆総合試験について(中一～高二)

お知らせ

- ・総合試験は、塾生諸君の学習達成度を測るものとして、大変重要なものです。全員、必ず指定された日時に受験して下さい。
- ・万一、やむを得ぬ事情で欠席する場合は、事前に欠席届(事務でお渡しします)の提出が必要です。
- ・欠席届には、欠席理由を明記の上、保護者の方の署名と捺印が必要です。
- ・欠席届は試験前日までに事務へ提出願います。
- ・届け出時に、事務から後日受験の日時を指示します。
- ・当日、急遽欠席する場合には、当日中に電話連絡の上、事務の指示を受けて下さい。
- ・なお、この場合も、前記同様の欠席届を後日提出していただきます。

☆面談・夏期講習について

七月二十日及び二十一日実施予定の面談は中学生の保護者の方が対象となります。高校生の面談は七月中に随時実施する予定です。

夏期講習時間割等の詳細は、次回の塾報(六月下旬発行予定)でお知らせ致します。やむを得ぬ事情で夏期講習を受講できない場合は、七月五日までにご連絡下さい。

チーフ制度について

△▼チーフ制度とは？▲▽

館山塾では、塾生一人に対して、常勤講師一名が担任講師（チーフ）となります。塾での受講科目に限らず、学校の成績も含めて成績を総合的に把握し、一人一人の塾生が、的確に学習を進められるようアドバイスしていきます。

高校生に関しては、既に年度初めに担当チーフによる面談を行いました。全学年とも、夏休み前、及び秋から冬にかけての時期に個別に面談を行う予定です。特に三年生には、受験を前に綿密な受験指導を行います。苦手科目を敬遠してつい勉強のバランスが崩れている場合など、早め到的確なアドバイスを行って、授業以外でも塾生の学力向上に効果を上げていきます。なお高校生にも、保護者同席の三者面談のご要望にお応えしています。

塾生諸君の方でも、相談事があれば、いつでも各チーフまで申し出て下さい。受験相談から学習上のあらゆる事に至るまで、何でも受け付けます。模試の結果など携えて、どんな相談に来て下さい。また、チーフ以外の担当科目の講師に相談がある場合も、遠慮なく申し出て下さい。

ここに紹介する「秘訣」は、今春、合格を果たした諸君から寄せられたものです。受験生活を振り返り、どのような点に注意したらよいか、それぞれの時期別に書いてもらいました。各自の学習の参考にして下さい。

△▼▲▽△▼▲▲▽△▼▲▲▽▼

大学合格者による「合格の秘訣」

△▼▲▽△▼▲▲▽△▼▲▲▽▼

胡子裕道君 学芸大附高)

東京大学文科Ⅱ類合格

☆高1の時

予習と宿題はきちんとやる。

☆高2の時

高1の時と同様。僕は日本史もとって、高2のうちに終わらせるつもりだったけど、ムリでした。

☆高3の 学期

澤根先生の出す宿題の量に苦しんだ。でもちゃんとやれば力はつくはず。

☆高3の夏休み

部活が大半だったので、あまり勉強していない。最低限のノルマを決めて勉強した。

☆高3の二学期

過去間に着手するのが遅かったかもしれない。10月頃にはやり始めないと後が辛い。

☆高3の冬休み

一日中塾にこもる日もできて大変だった。

☆高3の直前期

単語カードのすばらしさに気が付いた。自分で作って暗記すると効率が違う。

山成美季さん 筑波大附高)

東京外国語大学外国語学部合格

☆高1の時

夏から渡米予定だったため、英語を申し訳程度にやっていたくらいで、勉強は何もやっていなかった。

☆高2の時

夏に帰国し、受験勉強を意識しだしたのは秋。高1の数学から始め、古文の漢文の知識は幼稚園児レベルだった。暗記量が多い世界史・日本史を真剣にやることを勧めます。

☆高3の 一学期

数学にかける時間が一番多かった。この時、日本史をまじめにやっていたいなかったツケが後にやってきた。英単語・歴史などは早いうちからできるだけ詰めておくべき。

☆高3の夏休み

英語と数学だけで終わった夏だった。英語は決めた長文読解集をきっちりやりきって、おかげでリーディングは伸びた。が、しつこいが夏休みを利用して暗記物をやるべき。

☆高3の二学期

精神的につらい時期で、志望校の変更などをして、ペースが乱れ気味だった。日本史に焦り始め、英語のポキヤブラリー不足を自覚し、

絶望的だった。

☆高3の冬休み

センターの勉強を集中的にやった。それ以外の時間は全て日本史にあてた。志望大学の過去問をこの頃やり始めたが、もっと早くやるべきだったと思う。

☆高3の直前期

日本史しかやっていなかったため、欠しく英文を見ていないなあ……なんてこともしばしば。バランスの良い勉強をおすすめします。

小菅敦文君 筑波大(附高)

慶應義塾大学理工学部合格

☆高1の時

既に理系に行くことを決めていたので、数学はきちんと復習し、理解するように努めた。

☆高2の時

高2の夏から数ⅢCが始まるとともに、勉強する習慣を付けるようにした。志望先を考え始めた。

☆高3の1学期

塾の宿題の量が膨大だったので、きちんとスケジュールを組んで取り組むようにした。数学と理科はとにかく、自分で納得のいくまで考え抜くようにした。

☆高3の夏休み

数学と理科の基礎固めに徹した。夏は長いので、具体的な目標を決めるとよい。総合試験で何点取る、など。難関大受験を考えるな

ら、東大模試は絶対受けるべき。

☆高3の1学期

過去問を週に一年分程解いてみるようにした。数学では単純なミスをしないうちに心掛ける。理科は過去問を解きつつ、基礎固め。センター対策も九月から始めた。

☆高3の冬休み

数ⅢCの勘が鈍らないようにしつつ、センター対策を中心にやった。体調管理もぬかりのないように。基本事項の徹底をしっかりと。

☆高3の直前期

センター明けは理科と数学に全力を注いだ。理科はこの時期に本当に伸びた。過去問を解いて実戦力を身に付けた。

渡辺諒君 國學院高)

首都大学東京 都市教養学部合格

☆高1の時

英語は文法完成。数学はいくらやってもできなくて泣きそう。国語は頑張っても塾内ビリ。

☆高2の時

それなりに結果として主要三科目ができるようになる。嘘のように偏差値70。

☆高3の1学期

初めは全ての科目を取ってやり出す。理科を本気でやり始める。部活と勉強で死にそう……。

☆高3の夏休み

科目を減らしやり出すが、また模試や試験ができなくなる。手を抜いたわけじゃないので、自分を信じる。

☆高3の1学期

なかなか伸びてこない。それでも自分のできる努力は全て尽くしてみる。

☆高3の冬休み

何となく全ての科目ができるようになってきた。特に予想以上に理科が伸びる。

☆高3の直前期

まだ理科の伸びが続く。数学が予想以上に入試で解くのが難しいことに気付く。

森谷淳美さん 都立北園高)

立教大学社会学部合格

☆高1の時

高校受験での勉強を土台に基礎固めをする。

☆高2の時

中だるみの時期だけど、10分でも15分でもちゃんと頭を使う時間を作る。

☆高3の1学期

いろんなレベルの長文問題を解いて、知らない単語をとにかく覚える。現代文も多く解いて、問題に慣れる。

☆高3の夏休み

英語はとにかく長文の練習をする。日本史や古文単語などの暗記系の科目に一通り目を通

して、全部一回は見えておく。

☆高3の1学期

英語の長文は徐々に赤本や少し難しめのものを解き、単語も1ランク上のをチェックするようにする。暗記系の科目を主にして、知らない知識を頭に入れていく。

☆高3の冬休み

受験校の傾向に合わせて勉強する。赤本をとにかく解く。英語の長文、現代文の読解を1〜2題と、残りは暗記物をひたすら頭に入れる。

☆高3の直前期

赤本を解いて、間違えた問題を書き込んだノートを見直して、弱点をつぶす。

△▼▲▽△△▼▲▽△▼▲▽△▼▲▽

卒業生からのアドバイス 高校受験編)

△▼▲▽△△▼▲▽△▼▲▽△▼▲▽

臼井藍さん 文京第六中)

都立戸山高校合格

☆中2の時

塾の宿題をきちんとやっていた。復習テストの勉強もしていた。

☆中3の1学期

中2の時と同じ。

☆中3の夏休み

無理はしないで出た宿題をしっかりとやった。

☆中3の2学期

学校では定期試験の勉強に力を入れた。塾では今まで通り宿題だけやっていた。

☆中3の冬休み

ここで初めて志望校の過去問を解いた。宿題の量が多かったが、マイペースに全てやり、分からない事は聞くようにした。

☆中3の直前期

毎日塾へ行き、いろんな高校の過去問をやり、説明してもらった。

塩原寿周君 神田一橋中)

都立戸山高校合格

☆中1の時

授業についていけるように学校の先生の話をよく聞いた。

☆中2の時

スポーツに力を入れて運動をいっぱいし、体力を付けた。

☆中3の1学期

受験生としての意識はあったものの、思いつく出を作ってから勉強しようと思ひ、修学旅行後から勉強し始めた。

☆中3の夏休み

国・数・英は館山塾でやってもらい、弱点がわかってきた。そこを家でもやるようにし

た。運動もほどほどにやってストレスを発散。

☆中3の2学期

学校でも定期考査で点を取らなくてはいけなく、一番忙しかったが、風邪を引かずになんかこなせたのが良かったと思う。

☆中3の冬休み

全てのことを確認しつつ、できなかったら繰り返しやり、あとは演習をたくさんやった。

☆中3の直前期

やることはやってきたので、最終確認と過去問をやり、体調を整えるようにした。

石岡佑一君 神田一橋中)

都立竹早高校合格

☆中1の時

入試のことはあまり意識せず、授業を真面目に受けて、定期テストで良い点を取る。先生に好印象を与えるのも方法の一つ。

☆中2の時

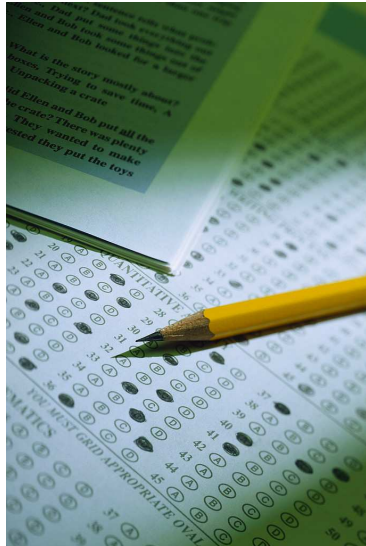
前半では中1と同じような勉強をする。後半からは入試のことも考え、中1の範囲で苦手分野が無いかな確かめる。

☆中3の1学期

まずは内申点を稼ごう。2学期の成績は1学期も含めて出されるので、授業やテストには真面目に取り組もう。

☆中3の夏休み

夏期講習をしっかりと受けて、十分な基礎学力を身に付けよう。もちろん学校の宿題も忘れ



ずに 提出しないと…フッフ。

☆中3の2学期

勉強量と成績の向上がすぐに結びつくとは限らないので、精神的に大変な時期。やるべきことを一つ一つ消化しよう。後半では過去間にも取り組んで、入試の傾向を知っておこう。

☆中3の冬休み

冬期講習で仕上げにかかろう。学校の宿題はあまりまともしなくてもいいかも？

☆中3の直前期

正直、学校の授業は受けるフリさえしておけばいいだろう。過去問もバンバン解いていて、自信を付けよう。

▲▽ 東大合格への道 —— 塾講師の子育て論 —— 第一回 ▽▲

胡子俊英

これまで多くの塾生を送り出してきましたが、今年初めて親としての立場で受験を経験し、無事に息子を東京大学に合格させることができました。館山塾には高校三年間通い、夏までサッカー部を続けながらも合格できたのはなぜか。同じ学芸大附属高校のサッカー部で東大を受験した他の数名は全滅しただけに、紙一重の勝負だったことは疑いありません。運が良かったと言えればそれまでですが、塾で長年教えていて気付いたことを織り交ぜながら、何か皆様のご参考になればと思い、書いてみることにしました。

どんな生徒が伸びるのか

塾で長年教えていて、いろいろなタイプの生徒を見てきて、どんな生徒が受験をスムーズに乗り越えられるかは十分わかっていました。受験に必要な力とは、

素直さ、冷静さ、忍耐力、集中力、体力、記憶力、創造力…

と、いろいろ挙げることができますが、中でも何が一番大切なのでしょうか。塾側の対応として、成功例・失敗例は数多く経験してきましたから、それについても毎年反省を重ねています。ところが、同じように塾が対応していても、ぐんぐん成績を伸ばしていく生徒もいれば、なかなか伸びない生徒がいるのは事実です。では、その違いは一体どこにあるのでしょうか。

何でも吸収する素直さ

自分の子供が生まれた時、中学生までに伸びる生徒に育てていくにはどうすればいいか、これは、考えるまでもなく、すぐに実践に移していました。

息子が生まれた産院は小さなところでしたから、貸し切り状態で、生後三十分の時、医師が産婦の後処理をしている時、生まれたばかりの息子が一人で処置室の外のベッドに寝かされていました。看護婦さんに促されて、初めて対面しました。そうだ、インプリンティングだ。生まれたばかりのアヒルの子が初めて見たものを親だと刷り込まれるという話を思い出しました。人間だって、最初の言葉はしっかりと脳の奥深くに刷り込まれるに違いありません。一対一でいられる時間はたっぷりありました。その場で、生まれたばかりの息子の脳に何を刷り込むか考えました。その一つが、「お父さんの言うことをよく聞くこと」でした。

これが効きました。その後、息子は、母親の言うことは聞き流すことはあっても、私の言うことだけはなぜか素直に聞くのです。こんなに効くとは思いませんでした。いくら息子とは言え、他人格にこれほど容易に影響力を持っていいものだろうか、これではマインド・コントロールではないかと、我ながら怖くなったぐらいです。ですから、息子にはできるだけ何かをしるとは言わなくなっていました。すると、滅多に何も言わないから、たまに何か言うとまたそれがすごくよく言うことを聞いてくれるというように、ますます効果が助長されていったのです。

学びの基本は素直さです。言われたことをまずはきちんと身に付けてみることです。不要かどうかは後で決めればよいことです。食わず嫌いは成長を阻害します。まずは何でも吸収する素直さ、これが養うべき第一の力です。

言語能力の基盤 漢字力

しかし、いくら素直でも、言われたことがすぐに抜けてしまっただけでは、どうにもなりません。次に重要なのは、記憶力です。

息子は電車好きでした。これも、赤ん坊の頃から電車に乗ってどこかへ出かけることが、親にとっても楽しい気分でしたから、赤ん坊ながら電車でのお出かけイコール楽しいことという経験が積み重なっていったものと想像されます。そのうち路線図に興味を持ち始めたので、カレンダーの裏などを使って、路線図を私が手書きしてすごろくを作って遊ぶようになりました。駅名は全部漢字で書いていましたが、息子はそれを次から次へと覚え、幼稚園の年長までには、私より遙かに詳しくなっていました。ある時、息子と多摩動物園に行った時のことです。乗っていた特急におばあさんが入って来て、「これは千歳烏山に止まりますか」と尋ねられました。一瞬私は「あれっ、止まったかな、どっちだっけ??」と思って息子の顔を見ると、息子は必死に首を横に振っています。そこで私は迷わず、「止まりません」と答えました。おばあさんは、まさか情報源が幼稚園児とも知らずに降りていきました。息子の記憶力は確かでした。

子供は興味さえ持てば、ほとんど無限に覚えます。最初は家の最寄り駅からおばあちゃんの家へ行く過程の駅を覚え、そのうちそれでは飽き足りずに、首都圏の全路線図を頭に入れてしまいました。しかも全部漢字で読めるようになっていたので、テレビを見ていても、「あっ、荻窪の荻だ」といった調子で、漢字そのものにも興味を持ち始めました。

こうなる前提として、もう一点、文字への関心を養っておくことも必要でした。赤ん坊の頃から絵本の読み聞かせはもちろんしていましたが、私の場合は、休日に寝転がって本を読んでいると、一歳位の頃はよく邪魔をしに来ましたから、しょうがないので、膝にのせて一緒に読むようにしていました。古墳の本を読んでいた時には、図表があったので、息子はそれに興味を示し、「これは?」「これは?」としつこく聞いてきます。そこで、私も根気よく「前方後円墳」「方墳」といった説明を読んで聞かせます。息子は面白がって、何度も聞いてきます。「双脚輪状紋」「直弧紋」といった装飾古墳の図柄まで教えました。今度は、こちらが「これは?」と聞くと、「ゼンポウコウエンフン」「ソウキヤクリンジョウモン」と次々に答えるのです。これは面白いと思って、次から次へと覚えさせていきました。私がちょうど免許の書き換えでもらってきた交通教則本を見ていたら、また膝に乗ってきて、「これは?」「これは?」を始めたので、またまたいろいろ教えていたら、ある日、ベビー・カーで散歩の途中、突然道路標識を指さして、「あっ! ジテンチャオヨビホコウチャチェンヨウ (自転車及び歩行者専用)!」「オウダンキンチ (横断禁止)!」と叫び出したのです。また、茨城の虎塚古墳の装飾壁画が一般公開されているというので、ちょうど一歳になったぐらいの時に見に行ったら、入り口のポスターを見て、息子が「あっ、ゼンポウコウエンフン!」と叫んだものですから、職員の人まるでおバケでも見たかのような顔をして驚いていたのがおかしかったです。

こうして小学校入学前に、大半の漢字は読めるようになっていましたから、漢字検定二級は中二で難なく合格することができました。英検は準二級止まりだったので、漢字力はこの遊びながら覚えた基礎力が大きな基盤になったことは間違いありません。

私が漢字を覚えさせることに力を入れたのは、以前から、論述力や読解力が、漢字力とほぼ比例関係にあることに気付いていたからです。もちろん、漢字力は、論述力や読解力の必要条件に過ぎませんから、漢字力だけ付けても仕方ありません。しかし、漢字力なしでは、日本語の読解力・論述力は養いようがないの

も確かです。これは、自分自身の経験からも漠然と思っていたことですが、以前、開成から東大へ入った生徒で、語彙力が非常に優れた生徒がいたので、保護者面談の際にお母様にお尋ねしたところ、「小さい頃から漢字が好きでしたね」という言葉も参考になっていました。形・音・意味と三拍子揃った漢字の奥深さが、脳の発達により影響を及ぼさないはずがありません。幼い頃から脳を鍛えたとしたら、漢字ほど好適な材料はないのではないのでしょうか。

今からでも遅くありません。漢字の勉強にはもっともっと力を入れましょう。

今回は忍耐力のお話をします。

▲▽ ある経営コンサルタントの話 ▼▲

熊倉幹男

もうずいぶん前の話ですが、ある雑誌で読んで記憶に残っていた良い話があります。皆さんの参考になればと書いてみました。

アメリカのある不動産会社の社長が、経営に行き詰まり、知人の紹介でとある経営コンサルタントのところに相談に行きました。

いろいろ話をして、最後にコンサルタントはあるアドバイスをして、料金として1000\$^{ドル}(今で言う10万円くらい)を請求しました。請求された不動産会社の経営者は、こんな簡単なアドバイスでそんな大金払えるかと、憤慨して帰ってしまいました。

それから数日後、経営に行き詰まってどうにもならなくなった先の経営者は、コンサルタントのことを思いだし、他に方法も考えられなかったので教えてもらった方法を試してみました。

そうするとどうなったでしょう、話の流れからおわりの通り、その会社は経営を持ち直し、軌道にのって順調に業績を伸ばしたそうです。

さて、コンサルタントがアドバイスした方法です。

それは、寝る前に紙に明日すべきことをすべて箇条書きし、優先順に番号を付け、それをワイシャツのポケットにしまします。翌日起きたら、その通りに実践する、ただそれだけの方法でした。

この方法のすぐれている点は、第一に、寝る前に予定を立てるということです。もう何もすべきことはない、かつすぐに眠りたいという状況は、予定を立てるには最適の時間なのです。よけいなことで悩もうとしませんし。第二に、前日なので次の日の事情、天気が悪いか、やる気がしないとか、計画をじゃまする物の想定がないので、理想に近い予定が立てられるのです。第三に、当日、文句を言う相手がいないということです。親とか先生とか会社の上司、お客に言われたことではなく、昨日の自分の命令ですから、従うのにあまり抵抗はないはずです。

問題は実践する力があるかどうかですね。朝起きたら、「よし、紙に書いてある通りにするぞ。」と思えば良いのですから、意外と簡単かもしれません。

机に向かって勉強する気がしないとか、何からしたら良いんだと思うことがある君、一度試してみてもいいかがでしょうか。今日、寝る前に紙に書くのです、明日すべきことを。ただし、あまり欲張らないことです。

そうそう、その不動産会社の経営者はちゃんと謝礼を払いに行ったそうです。義を通す人だったからこそ実行できたのでしょうか。ちなみに皆さんがこの方法を実践して明るい未来が開けた場合でも、私に謝礼を払う必要はありません。が、どうしてもと言うのであれば断りません。出世払いで結構です。